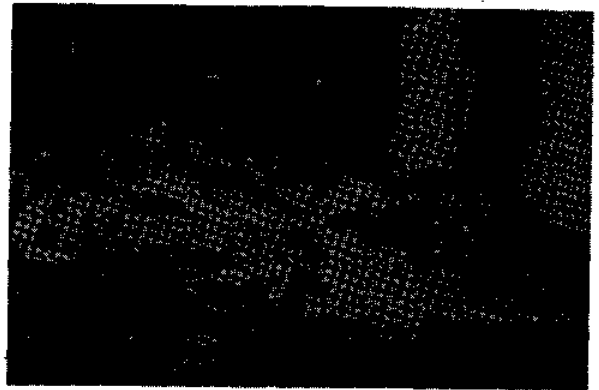


# 〈ドキュメント〉 夜間医療パトロール



釜ヶ崎では冬季に仕事にありつけない路上で青カン(野宿)する日雇労働者を対象とした「第八回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会」とそれを支援する「キリスト教釜ヶ崎越冬委員会」の人たちによって「夜間医療パトロール」が続けられている。ここでは一月一日(火)の夜、その表情を探ってみた。

\* \* \*

午後九時。萩之茶屋二丁目にある喜望の家では越冬委員会が開かれていた。キリスト教関係の人たちが釜ヶ崎の越冬支援活動に取り組んだのが一九六五年だから、今年で三回目になる。はじめは関西都市産業問題協議会(KUIM)の現場研修というかたちで飲み出し、夜間パトロールなどを行ってきたが、その年の七月に釜ヶ崎日

雇労働組合が結成され、炊き出しは釜日を中心とする越冬隊が引き受けるようになったので、キリスト教関係の人たちは夜間パトロールをその活動の中心としてきた。今回はKUIM、釜ヶ崎地域問題研究会、釜ヶ崎協会の三者で上記の越冬委員会を組織し、夜間医療パトロール、炊き出しへのカンパ支援、行政への要望書提出などを行うことになった。そして毎週火曜日に越冬委員会、金曜日には越冬隊の支援連絡会議を開いている。

この日の越冬委員会では、大阪市が二月二日から一月一日まで行った臨時無料宿泊所の状況、青カン者・パトロール参加者の状況、カンパの状況などが報告され、さらに一週間の予定、釜ヶ崎越冬支援中間報告集、越冬活動中間報告書について真剣な話し合いが続いていた。時間の経つのが全く早い。

一〇時半。この日の夜間医療パ

トロールに参加する人たちが集ってきた。これまでの越冬では公園にテントを張り、そこで炊き出しやたき火をし、まがりなりにも暖をとることができた。ところが、大阪市は改良工事を理由に三つの公園を金網で閉鎖し、寒さに打ちひしがれている労働者を完全に締め出している。期日が一月末までというのも、明らかに越冬に利用することを妨害しているとしたか考えられない。仕方なく、少しでも暖のたしにと、パトロールにスリーブを炊く。一方、このパトロールがあくまでも支援活動であること、今夜出会うであろう青カン者が、実は昨日まで底辺において日本の資本主義を支えてきた人であって自分との関係をよく考えてパトロールに参加してほしいことなど、その日の責任者によるオリエンテーションが行われていた。

一一時。救急箱、懐中電灯、スリーブを手に萩之茶屋一丁目の大阪社会医療センター前で越冬隊の人

たちと合流する。この夜パトロールに参加する人は越冬隊から九人、越冬委員会から一五人。病人を保護するための二台のリヤカーにはコートや毛布も積まれている。センター前の軒下には、すでに越冬隊の人たちによって敷かれた布団に七〇人余が寝ている。

「大丈夫と判断したのだろう。あんじょしてや」  
パトロール隊は道を急ぐ。  
午前〇時。気温三度。商店街を抜けると、身を切るような寒風に思わず身振る。コースは釜ヶ崎銀座の路上をゆっくりと歩く。西成署前にてうずくまるようにして倒れている中年の男を見つけた。よれよれの作業ズボンに泥だらけの草色のジャンパー姿。頭から血が流れている。

この夜、パトロールが終わった午前〇時五〇分までの間、路上や公園で青カンしている人たちは一六〇人をかぞえた。リヤカーで保護された人は八人。センター前の軒下の布団に収容された人八二人。こうして昨年一月二十六日から始まった夜間医療パトロールは二月いっぱいまで続く。この夜は、さいわい救急車を呼ぶことはなかったが、一〇日までに三七台、一日平均二、五台救急車を呼んでいる。うち入院できた人は九人。翌朝九時の炊き出しには医療券を発行し、病院へつきそうが、越冬隊でこれまで発行した医療券は一六五枚で、うち二六人の結核患者を発見している。

この日は東京の爆弾事件が報道されたためだろうか、いつも私服警官がパトロールを監視しているが、この日はやたらと私服の姿が目につく。いったい行政はこの事態をどう考えているのだろうか。長びく不況でパトロール中に保

「暖いスープがあるで」  
早速紙コップにスープが配られる。大丈夫と判断したのだろう。あんじょしてや」  
パトロール隊は道を急ぐ。  
午前〇時。気温三度。商店街を抜けると、身を切るような寒風に思わず身振る。コースは釜ヶ崎銀座の路上をゆっくりと歩く。西成署前にてうずくまるようにして倒れている中年の男を見つけた。よれよれの作業ズボンに泥だらけの草色のジャンパー姿。頭から血が流れている。

「どないしたんや」  
からだを揺り動かすとうす目をあけるが、疲労でしゃべれない。早速応急処置をする。救急車を呼ぶまではない。リヤカーに収容してセンターの軒下に敷いてある布団の中へ保護。通称小便ガード前の水飲み場では一五人のたき火を囲んでいる人たちに声をかけ、やけどをしたという二人に応急手当をして「あした九時、市民館前へ来てや。病院に行かんとかあんで」と約束する。

この日は東京の爆弾事件が報道されたためだろうか、いつも私服警官がパトロールを監視しているが、この日はやたらと私服の姿が目につく。いったい行政はこの事態をどう考えているのだろうか。長びく不況でパトロール中に保

